

YMCA健康福祉専門学校

## 健康福祉ニュース

What's New!

・ 平和を考える会

・ 就職内定報告!

うれしい! たのしい! 大好き?

### 30kmチャリティー・ウォーキング開催!

今年もいよいよ恒例の「30kmチャリティー・ウォーキング」が本厚木～江ノ島間で開催されます。今年で9回目を迎えるこの大会は、YMCA健康福祉専門学校の特別な行事として位置づけられています。

新入生にとっては、初めての30km。この長い道のりには多くのドラマがあります。互いの「支え合い」「励まし合い」「配慮」「誠実さ」「責任」「共感」そして「達成感」など参加している学生自身の大きな気づきの場面でもあります。もちろんサポートする教職員の「安全」に対する配慮も不可欠で、伴走車の存在にも大きな意味があります。

午前8時に本校体育館に全学生が集合します。学生実行委員長の開催趣旨説明から諸注意確認、すべてが学生たち主導で進められます。教職員はサポート隊です。6名程度のグループごとにゼッケンが配布され、10分間隔で江ノ島に向けてスタートです。神奈川県を東西に分断する相模川まで約2km。そこから第一チェックポイントまで5kmです。相模川測道に出るまでは案内役の学生が看板を持って道案内に立ちます。各チェックポイントでは、グループメンバー全員の到着を待って再スタートです。靴ひもを結びなおし、汗で濡れたTシャツを着がえ、水分、塩分補給をします。第2チェックポイントまでは8km、途中「東海道新幹線陸橋」「田村の渡し跡」や「湘南ベルマーレサッカー場」などを越えて、ここまでで学校から15km。平塚市総合体育館前で休憩です。約1時間の休憩後、相模川河口まで3km、国道1号線を過ぎて、湘南大橋を渡って茅ヶ崎入り、柳島キャンプ場が最終第3チェックポイントです。ここから江ノ島東浜まではサイクリングロードをひたすら東へ進みます。海岸線に出るとすぐに右手に烏帽子岩が見え、茅ヶ崎漁港を通り過ぎるとはるか前方に江ノ島が見えます。比較的大きく見える江ノ島が歩いていても歩いていても遠くに見え、ここが最大の難所です。辻堂駅入り口の道路標識が見えると残り10km。サイクリングやウォーキングの市民の方々から「がんばれ!」「どこから歩いているの?」など声援が多いのもうれしい体験です。江ノ島水族館を通り過ぎれば残り3kmです。ここまで来ると後はわずかですが、足は棒のようになり、靴ずれが靴の中に何カ所もできていることでしょう。「無理はしない」「仲間に迷惑をかける」「やり遂げたい」「自分ならできる」歩いている人達それぞれに葛藤が始まります。残り3kmこの大会のドラマがあります。男子学生たちの中には物足りないという学生もいますが、懸命にそして黙々と歩いている人もいます。棄権しても誰からも責められません。グループメンバーへの配慮はありますか?全員揃っていますか?チェックポイントで投げかけられるひと一言が胸に突き刺さる。みんな自分の事で精一杯。人のことなど気にする余裕もないのです。ペースが違う人と一緒に歩くのは辛い。待っていると体が冷えてくる。「おいていかないで!」「ごめんね!遅くて」「大丈夫だよ!ゆっくり行こうよ!」「いい加減にしてくれよ!」「何であいつと同じグループなんだよ!」様々な心の声が聞こえてきます。辛い表情が見て取れる学生に「もう良いんだよ!良くがんばったね!」励ましの声に涙する学生も少なくありません。

最近の若者には「根気がなく、だらしがない」と大人たちは言います。決してそんなことはありません。懸命に向き合うことがあれば、彼らには意欲が湧いてくるし、一緒に歩いてくれる仲間がいれば、支える側にだって立てるのです。

わたしはYMCA専門学校の学生たちひとり一人を誇りに思います。

YMCA健康福祉専門学校  
校長 小林 一郎





ひとり1,100mを走るAコースで参加しました

## チャリティー・ランで激走！?

10月20日、今年第10回を迎えるYMCAインターナショナル・チャリティー・ランが行われ、YMCA健康福祉専門学校からもたくさんの学生が参加しました。この活動は「障がい児にキャンプの機会を提供する」とを目的に、参加費はすべて募金に充てられており、この募金の使途先の一つにYMCA健康福祉専門学校で行っている障がい児むけプログラム「Seed」があげられます。Seedは学生たちが主体と

なっていくプログラムということもあり、学生たちの意識も高く、各学科から1チームずつ3チーム、そして走者ボランティアとして2チームが参加しました。また、走者だけでなく、厚木Yの子どもたちと一緒に走ったり、会場での運営ボランティアとした参加したりと多くの学生が活躍する姿も見られました。秋空の下、みんなで大きな目標に向かい、1つのものを作り上げる喜びも感じることができました。



山田さんのほかに、フィリピン、ネパールへのスタディーツアー参加者が報告しました

## 横浜国際フェスタで、自分自身の経験を伝える

10月27日、28日の2日間、パシフィック横浜にて「横浜国際フェスタ2007」が開催されました。これは横浜市を中心に国際交流、国際協力などの分野で活躍するNGOや国際機関、学校、企業などの取り組みを紹介し、理解を深めてもらうためのイベントです。横浜YMCAも毎年ブースやセミナー報告などを行っています。今回、福祉スポーツ科専攻科の山田智子さんが横浜NGO連絡会という団体の「きっかけはスタディーツアー！」という企画で報告を行いました。2006年3月に参

加したタイでのボランティア経験が自分の考え方や生活にどう影響したかを、これからスタディーツアーに参加してみたいと考えている人たちに伝えるという内容で、山田さんはタイの児童買春から保護された子どもたちの暮らす施設で「人と人が支えあう大切さ」「困難な境遇にあっても思いやりをもつこと」を子どもたちから学んだと話し、来場者とも積極的に交流していました。国際ボランティアに参加だけで終わりにせず、次に伝えることはとても意味あることですね。



戦争時、ちょうど学生たちと同世代だった石山さん。「自分の将来なんて考えられなかった」

## 戦争体験と平和への思い

10月30日には、「平和を考える～戦争体験者の講和」を行いました。厚木近隣の教会の協力を得て、4名の戦争体験者をご自身の体験と、平和への思いをお話してくださいました。目黒での空襲についてお話してくださいました今村さんは、自分自身は戦争に行っていないが、住んでいるところすべてが戦地のような感じとおっしゃっていました。今年80歳となる今村さんは、兵役の義務のあった最後の年代ということで、戦争はもちろん、兵役もない現代、それはあたりまえと感じているかもしれないが、実はとても幸せなことなんです、と強く話してくださいました。

ご自身の秦野での疎開生活についてお話してくださいました林さんは「お国のために」と覚悟なものを我慢した当時、百科事典の「け」の項を開いては「ケーキ」の写真を眺めたこと、とうもろこしを芯まですべて食べたことなどをお聞かせくださいました。8月15日の玉音放送を聞き、よくわからないながらも「悔しい気持ち」と「親元に変えられる安堵感」で泣いていたそうです。テレビやインターネットなどで情報のありあまる現代に、本当に大事なものを、考えて選んで生きていってほしい、もっといいものを、と求めすぎる気持ちが戦争を生むのです、とおっしゃったのが印象的でした。

## 障がい児スポーツ教室をサポート！



藤沢市の善行にある神奈川県体育センターにおいて、10月6日から11月10日までの土曜日を使い、県内の特別支援学校・特別支援学級に在籍するお子さんとその保護者の方を対象としたスポーツ教室が行われています。このスポーツ教室をYMCA健康福祉専門学校の福祉スポーツ科の学生がお手伝いしています。



プログラムは、親子10組ずつ3つのグループに分かれて、体操のほかいろいろなゲームを行います。それぞれのグループをひとりの学生が担当し、ゲームの説明をしたり、子どもたちへ「がんばれ！」「もう少し！」「じょうずにできたね！」などの声をかけたり、事故やけがのないように見守りをしていきます。1時間半、学生は子どもたちと走り回り、笑いあっています。



初日は体育館へ入ることのできなかった子が、元気に駆け込んでくるようになりました。お父さんとかゲームに参加できなかった子が、学生やほかのおともだちと一緒にゲームに取り組むことができました。毎回の教室は、机の上では学べないたくさんのご経験をさせてくれます。



## 就職内定者報告

卒業年次にあたる各学科の学生たちの実習も終わり、いよいよ就職活動も本格化してきました。

YMCA健康福祉専門学校では、5月の就職ガイダンス以降、担任の先生との面談などを繰り返し行い、就職先を見つけていきます。先輩たちの活躍もあり、毎年、希望者数を大きく越える求人が、高齢者・障がい者・保育・スポーツの各分野より届いていきます。今回は早々に内定をもらった介護福祉科の学生のメッセージをお伝えします。



介護福祉科2年 牧嶋 絵理さん(吉田島農林高校卒)

医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 内定

就職活動を始めるにあたり、いくつかの施設を見学に行きました。当初は高齢者施設への就職も考えていたのですが、先生に相談するなかで「病院で介護福祉士として働くことは、いろいろな経験につながる。視野を広げる意味でも行ってみたいは？」といわれ、第3段階の実習中に就職試験を受けました。介護福祉士として働くことに不安はありますが、鶴巻温泉病院では先輩たちもたくさん活躍しているので心強いです。



介護福祉科2年 大木 一さん(西湘高校卒)

医療法人尽誠会山近祈念総合病院 介護老人保健施設わかば 内定

ゆったりと生活していただくための特養(特別養護老人ホーム)よりも、自分に向いているのは介護老人保健施設だと思い、始めから就職活動は老健に絞りました。面接のときは自分の学生生活や実習で得た介護への姿勢を、できるだけ自分の言葉で、経験をふまえて話せるよう努力しました。入居期間が短い老健では、よりたくさんのお年寄りの方と触れあえることも魅力の一つ。たくさんの方の笑顔を支えられるようがんばります！

## 11月23日、厚木YMCA祭が行われます



厚木YMCAでは毎年、国際・地域協力募金活動の一環として、YMCA祭を実施しております。YMCA祭の収益は国際・地域協力募金となり、これまでミャンマーでの無医村医療活動支援、タイでは児童保護のためのシェルター設立、エイズ防止プロジェクトへの参加、カンボジアの地雷の被害で苦しむ子供たちの支援、神奈川県内に住む外国人への支援、また昨年度の募金は、ジャワ島中部地震やフィリピン台風21号の災害支援にも使われました。今年も、日本国内は元より、世界各国の様々な人々を一人でも多く支援する為に、バザー、ゲーム大会、模擬店など、YMCA健康福祉専門学校生、厚木YMCAプログラム会員、職員、スタッフが一丸となって、たくさんの楽しい催しを行います。私たちYMCAの活動をご理解いただくよい機会となっています。ぜひ、遊びに来て下さい。また当日の運営をお手伝いして下さるボランティアさんや、バザーへの献品も募集しています。お気軽にお問合せください！

### 使途先



タイ(パヤオセンター)  
児童買春から保護された子どもやその危険のある子どもが生活をともにする施設。職業訓練の一環として製作するクラフト用の刺繍でお小遣いをもらえます。パヤオクラフトはYMCA祭でも販売しています。



ミャンマー医療・交流活動  
医師、歯科医師などの医療従事者を中心に、現地での地域医療の自立を支援します。年に1度のモバイルクリニックへは受診待ちの行列ができます。



被災地支援(写真は大地震のあったジャワ島)  
国内外で起こる災害が後を絶ちません。国内はもちろん世界にあるYMCAを通じて、現地に必要なものは何かを調査し、支援しています。



### YMCA健康福祉専門学校

福祉スポーツ科  
健康福祉科  
介護福祉科

〒243-0018

厚木市中町4-16-19

電話 046-223-1441

FAX 046-223-2101

Email: ymkenko@yokohama-ymca.or.jp

HP: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/health>



小田急線本厚木駅から徒歩5分  
本厚木駅周辺にはミロードをはじめたくさんのお店もあり便利です。有名ラーメン店もありますよ！

体験入学をおこなっています！  
<http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/>

### Realize your dream!

～地域福祉をささえるのはあなたです！～

YMCAではさまざまな活動を通して次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と体を育むこと」

そしてこれらを実現するために、次のことを大切にします。

- 「Caring(思いやり)」「Honesty(誠実さ)」
- 「Responsibility(責任感)」「Respect(尊敬心)」

YMCA健康福祉専門学校では、カリキュラムや学校行事を通じて4つの大切な価値を意識する機会を取り入れています。将来、福祉・保育・スポーツの現場で活躍する学生のみなさんに、他者への思いやりの心を持ち、相手を敬い、自分の行動に責任を持ち、誠実に取り組んでいく専門職になってほしいと願っています。